

北西部は鹿児島郡桜島町に、南部及び東部は鹿児島市東桜島地区にほぼ一致している。

桜島町の農業は、柑橘類を中心とする果樹栽培が主体で、大正の噴火後温州みかんを中心とする商品生産が発展し、県内でも有数の富裕な果樹地帯となった。農業の特色から、東桜島的な赤水地域・果樹地帯の中で漁業が行なわれている西部地域・果樹生産の中心である中部地域・果樹中心であるが桜島大根の主産地である東部地域の4地域に区分される。昭和47年以降、火山活動の活発化に伴って降灰による被害が増え、現在農業は壊滅的な状態にある。樹種転換・ビニールハウス栽培・土壌改良・制度資金などの対策がとられているが、農家の生活は困窮しており、他産業への出稼ぎが急増して、専業農家は存在しなくなっている。

また、農業と並んで桜島の主要な産業である観光においても、火山活動の活発化のために観光客が減少する傾向が見られるほか、水産業では火山活動が原因だと見られる水銀汚染の問題があり、さらに、降灰の人体への影響も心配されている。

このように、桜島における人文現象は、桜島の火山活動によって大きく制約されている。また、土地利用及び集落にとっては、水も1つの制約因子になっていると言える。

滋賀県愛知郡の地理学的研究

増 田 泰 子

滋賀県愛知郡は、琵琶湖の東部、一般に湖東平野といわれる地域にある。ここは、琵琶湖岸でも扇状地の発達が良い地域で、愛知郡はこのうち愛知川によって形成された扇状地の右岸全域を含んでいる。

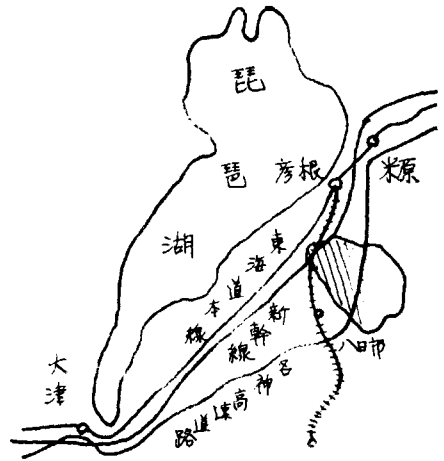
私が、ここをフィールドとしたのは、この明瞭な扇状地という地形のためであった。最初は、そのような地形条件が、この地域にどのような影響を与えているかを考えようと思っていた。しかし、最終的には、農村としての景観を保つ中で、農村内部に起きた変化とそうした変化の中で変わることなく続いてきたものの実態を把握することにより、近畿地方に位置する地域としての特色を出すことにした。

まず、農村内部の変化については、最近の15年間にみられた人口・産業の面での変化と自然とのかわりの面から、農業用水系統における変化をとらえることにした。また、農村内部で変わることなく続けられてきたものについては、この地方の祭祀とその背景にある村落内部の制度の面から考えてみた。

愛知郡の人口構造は、かつて典型的な農村型を示し、人口の減少期が続いたが、最近ではむしろ停滞の傾向にある。こうした中で、産業別就業人口の構成は、第一次産業と第二・三次産業の間で逆転し、農業の著しい兼業化をみた。このような就業構造の変化の背景には、愛知郡内外における第二・三次産業の就業先の増加という現象がみられなければならなかった。まず、郡外の雇用先については、愛知郡の隣接都市である彦根市と八日市市への通勤者数が圧倒的に多いことがわかった。一方、郡内では、愛知郡の唯一の鉄道の駅である愛知川駅周辺と愛知川の下流沿岸に多くの工場が分布し、特に第

二次産業の就業先となっていることがわかった。ところで、これらの工場の通勤圏は、一般にかなり狭い。つまり、通勤時間の削減によって生じた時間だけで農業が成り立っているのである。このような農業経営の合理化は、特に農業用水システムの整備によるところが大きい。すなわち、愛知郡は、かつてその地形条件に制約されて河川の利用率が低く、水不足に悩まされていたのだが、永源寺ダムの完成によって用水不足の心配からは解放されたのである。しかし、農業用水を巡る厳しい水利慣行の存在は、この地方に旧態依然とした面を残したと考えられた。すなわち、祭祀とその背景にある制度は、このような風土の中で培われ、存続してきたものと思われた。

このように、愛知郡は、農業の面で著しい変化を遂げ、合理的な側面を持ちながら、一方では、過去における慣習の継承にみられるように、旧に側面を合わせた地域であるといえる。



鈴鹿市白子地区を中心とする型紙産業に

関する地理学的考察

山川 敦子

本論文は、三重県の中北部鈴鹿市の、南東部に位置する白子地区をその対象地域とし、古い歴史を持ち、全国生産高の大半を占めるといわれる当地域の型紙産業を調査することにより、この産業が、鈴鹿市および白子地区において、いかなる比重を有しているのかという点を考察し、かつ、東京及び京都における型紙産業との比較を、主たる目的としたものである。

白子地区は、近代工業都市として第二次世界大戦後発展をとげてきた鈴鹿市の中では、特殊な地区であると思われたため、まず、鈴鹿市の概観を把握した後に、白子地区に焦点をしばってゆくことにした。そのための研究方法は、主として、三重大学教育学部の研究紀要、「日本地誌13」「三重県の地理」などの文献を参考にした。また、白子地区の型紙産業の概略をとらえるために、型紙製造業者・彫刻業者・染型紙販売業者からの聞き取り調査と、三重県教育委員会の文化財緊急報告書に基づいて、考察を進めた。さらに、他地域における型紙産業との比較の項では、白子地区と同様、聞き取り調査により、その実態を把握した。

研究方法は以上のとおりであるが、さて、この考察結果は次のとおりである。

- ① 白子地区の型紙産業を鈴鹿市の産業に位置づけてみると、単に数字だけで結論すると工場数が7.8%、工場従業者が3.7%、製造品出荷額等が2.3%ときわめて小さい数値を示している。これは、大量生産不可能、後継者不足、単純長時間労働などが原因していると思われる。そして、この数値は